

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273200416		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム御門台 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県静岡市清水区七ツ新屋2丁目1番28号		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyuu_detail_2016_022_kani=true&amp;ligvosvoCd=2273200416">http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyuu_detail_2016_022_kani=true&amp;ligvosvoCd=2273200416-</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○御門台はデイサービス(1階)とグループホーム(2階)1ユニットの併設施設となっており、デイサービスでは様々なカルチャー教室が充実していてグループホームのお客さまと一緒に参加できる環境作りに取り組んでいます。  
○グループホームでは温かい雰囲気の中でお客さまと一緒に生活していくことを大切にしており、家事・炊事・洗濯といった日中の生活活動をお客さまにも手伝っていただくことでご自宅に住んでいた時と同じように過ごしていただくことを心掛けています。地域のお祭りや防災訓練等にも積極的に参加することで社会との関わりも大切に地域密着型サービスを目指して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

男性職員が8割、利用者の9名は全員女性で、職員が支えつつも自然と利用者の母性の発揮がみられ、自己有用感につながっている事業所です。1階まで降りて洗濯物を干したりと、「今その人にできる生活動作(家事)を探しておこなってもらおう」ということを旨としており、「洗濯物たたみ、いつもありがとうございます」とお礼を伝えると、「男の人はなかなかね…」と返されるのが常との微笑ましいエピソードもあります。また側溝清掃など地道な関係づくりを重ね、地区と事業所、双方の祭りに相互協力が成され、また併設事業所のフロアでは月1回、新たに地域の皆さんとのふれあいの機会が設けられ、人の往来が恒常的にあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段から目に入る事務所に理念を掲示し会議時にスタッフ間で確認をしています。	法人理念、事業所理念を掲示しています。職員一人ひとりが小さなことにも配慮できている点とともに、利用者家族から直接感謝の言葉があることから、管理者は理念の実践が日々あると受け止めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の盆踊り大会での露店出店や氏子総代会主催のお日待ち行事で休憩所として協力をさせて頂いたり、地区の春祭りや地域防災訓練に参加させていただいております。	側溝清掃など地道な関係づくりを重ね、地区と事業所、双方の祭りに相互協力が成され、また併設事業所のフロアでは月1回、地域の皆さんとのふれあいの機会が新たに設けられ、人の往来が恒常的にあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区のどぶ掃除を地域の方々と時期を合わせ行っています。また、近くの職場体験場としての受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第2木曜日に運営推進会議の定期開催をし、活動報告を行い地域の悩み等を一緒に解決するよう話し合いを行っております。	運営推進会議では自治会長と氏子代表、民生委員から行事等様々情報が挙がっています。「地域の防災訓練で事業所の非常階段避難に応援が入り、具体的な協議となった」ことも会議を通じての成果です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や民生委員に参加していただくことで連携しています。	運営推進会議は夕方17時半～の開始ですが、地域包括支援センター職員には毎回足を運んでもらえています。また介護相談員が毎月訪れ、常に接する職員には言いづらい事が届くこともあり、改善につなげています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をすると共に、本社が身体拘束廃止委員会を設置。その取り組みとしてチーム会議内研修で取り上げるようにしています。居室の施錠については利用者の判断に委ねています。	身体拘束に係る自己チェックを定期的におこない、毎月の研修会(チーム会議の時間帯で実施)のプログラムにも組込まれています。職員には「困っていることがあれば何でも教えてください」と管理者が常々伝えていますが、相談窓口(教育チーム)も設けられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については年間研修カリキュラムのなかで学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書等を用いて御説明・ご質問の時間を用意しご理解・納得をいただいでから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、利用者アンケートを通し、ご意見聴取し対応検討を図っています。職員間では申し送りノートや朝礼、昼礼、カンファレンス、チーム会議にて情報の共有・対応に努めています。	個別発行での「御門台通信」を毎月家族に送り、家族会を年2回開催しています。また毎日面会の家族もいて比較的多くあることから、管理者と直接会話を持ったのやりとりが叶っています。	家族会は報告に留まっていますので、「一番人気のおやつ」「ぺんぎん倶楽部のメニュー」を提供したり、利用者の作品を披露する等、五感で伝わるものがあると良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のチーム会議等で意見を確認したり、個別面談で話を聞いて反映しています。	本社主導で重点項目シートと採算表の制度が敷かれ、職員の費用対効果への意識ある意見が増えています。発言のない職員には進行役が声をかけて万遍なく意見がでるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに個人目標を設定し半期ごとに評価面談をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づきステップアップ方式の社内研修に臨んでいる。社外研修に関しては情報の提供をし個人の希望も募っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会への出席や外部研修会場での交流を図っている。空き情報の共有も同時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に事前訪問を行い、ご本人のご要望を聞き取り、お試し利用をしていただきお客様が満足していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問い合わせ時や入居前の訪問時にご要望をお伺いすると共にお試し期間中のご様子をお伝えし望ましい対応について話し合い決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは寄り添い傾聴し情報を職員間で共有できるよう努めると共に、併設のデイサービスでのカルチャー教室や合同イベントに参加できる場の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物を一緒に干したり調理を手伝っていただき、日常生活全般を一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の生活歴や日々の語らい、ご家族との会話の中から拾い上げていきケアへと結びつけていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方にまた来ていただけるようにサポートして対応しています。ふれあい祭りや地域行事への参加を通じて交流の機会を工夫しています。	食器拭きや1階まで降りて洗濯物を干したりと、今その人にできる生活動作(家事)を探しておこなってもらおう、ということを旨としています。好みの乳酸飲料を週に1度皆で飲むことは、此処での習慣として続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関わり合いの機会を増やせるようフロアでの座席位置の配慮や月に一度以上の外出に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等へのご招待・御連絡をさせていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り寄り添い、会話を傾聴しご要望に沿えるようチームコミュニケーションを円滑に保てるよう努めています。	生活のなかで一緒にできることをおこなうなかで毀れた言葉を職員間で共有するようにしています。特にテレビや広告チラシで寿司が登場すると、異口同音に声があがり、外食レクリエーションに拍車がかかっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や日々の語らい、ご家族との会話の中から拾い上げていきケアへと結びつけていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の個別対応表を基にお客様の特徴を捉え職員が統一できる介護を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行いカンファレンスの中で意見やアイデアを出し介護計画に反映できるように努めている。	計画作成担当者が介護支援専門員の資格を有し、現場にもはいています。職員も「介護計画チェック表(モニタリング)」に取組み、チーム会議でのカンファレンスでも意見交換して、介護計画書づくりに参加しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で情報を共有し、計画についてチーム会議で話し合い見直しや実践に繋げている。現在は毎日のプランの実施状況も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や理美容の手配、併設施設のデイサービスのカルチャー教室、イベントへの参加取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣店舗での買い物や、近所へのお散歩時のご挨拶を心掛け、地域行事への積極的参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携は取れています。ご家族の意向によっては勤務外の職員が通院の介助も行っている。	24時間オンコールで、月2回訪問診療のある協力医に全員が変更しています。専門医の通院介助は家族がおこない、熱発受診や救急搬送には配置外の職員(管理者)が対応して、現場を空けないようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし指示をいただいています。併設デイサービスの看護職員がすぐに対応・支援できる体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員との情報交換を行い、退院後の処置や対応に関して主治医に相談し決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応に関しできる事とできない事について説明を行っている。状態の変化があった際にはその後の望ましい対応について話し合っています。	看取りをおこなう事業所として内外表明しており、家族には看取りに関する指針の説明を以て同意書を契約時にもらっています。現在のチームとなってからの実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に研修を行い、災害想定避難訓練・事業継続計画の訓練を行っている。	年2回のうち1度は消防署職員の立ち合いがあり、役割についてや立つ位置など具体的に助言をもらえ、また地域からも有事への協力があることを確認出来ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇はチーム内研修での実施や個別マナー研修にて取り組んでいます。	マナーについては、法人の教育チームが職員一人ひとりに向上への指導がおこなわれ、職員の挨拶は良好です。呼称はリレーションの距離感も鑑み、四角四面とはせず、下の名前にちゃんづけも許容範囲としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の勤務を厚くし、お散歩や買い物のご希望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り寄り添い対話をしている。ご希望に応じ、外出・気分転換できるよう勤務配置に心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はすべて個人の持ち込みとし、更衣時には服を選んでいただいている。理美容を利用できる日を月に一度設け、希望に合わせて対応させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に席に座り同じ食事を摂り、片付けもお客様と協働しています。	業者から調理法も貼付された食材が納入され、男性職員も奮闘しています。食前には口腔体操をおこないますがテレビはつけたままで、強いて飲み込みを心配するよりは一般家庭の雰囲気大切にしています。	「食材費なのか」「食糧費なのか」あらためて費用と内容の見直しがあることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては業者メニューによりバランスとカロリー管理をしている。水分に関しては摂取量を記録に残し把握するよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には全てのお客様が口腔ケアをさせていただいてから就寝されている。日中はお声掛けし誘導・付き添い対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けにより定時の誘導や下着交換の際にもさりげなく行う様努めています。	夜間のみオムツという人はいますが、半数に尿意があり日中は全員はリハパン+パットまたは布パンです。定時誘導は状態改善だけでなく消耗品消費への気遣いも含みおこなっています。トイレにはコールも付いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージ、水分摂取の声掛けをさせていただいています。服薬による調整も主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望に添えるよう努めています。基本としては週に3回入浴できるよう声掛けにて確認し個別対応を実施している。	週3日をめやすの入浴は「飲んで」の人ばかりではなく、拒否もありますが、人や時間を替えて本人本位で誘っています。冬至にはゆずを用意し、日常的には浴剤で愉しみを創るようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し不眠時には付き添い、状況に応じて日中休息できるよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表により確認ができ変更があった際には申し送りによる周知と状況観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人生活の中での役割が出来上がっている。職員も都度声掛けにより出番をつくり協働することに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日中外出したいと思う気持ちを大事にし、その場で即座に応じられることを目標とし、日中の職員配置を心掛けている。又、月に1回は外食を行うようにし外出計画の話題を持つようになっています。	近所を歩行訓練を兼ねて廻ったり、配置外の手がある複合施設でのメリットを活かして個別外出もできています。催しものに合せて思い立って出かけたり、普段の食事以外に、外食チェーンへの食事レクリエーションも実施していますが、計画だったものはありません。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他のお客様とのトラブルを避ける為、基本は事業所管理としていますがお客様のご要望があればご家族の了承のもとお客様管理のお財布も持てるよう対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承が得られればご本人自ら電話をしたり手紙でのやり取りができるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は家庭的な設備や物品としてご利用者の馴染みややすい空間を心掛けている。	「清掃道具は必ず元に戻す」「手指消毒」を徹底して、インフルエンザなどの感染症もない状況をつくり、床も年に1度の定期清掃が先週入ったばかりで新築同様に光っています。	脱衣所の壁の剥がれや、洗面台の上に洗剤の箱を並べる点など、5Sを含むビジュアル面での向上を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の生活空間にソファを配置し独りになれたり気の合う方と話せる空間作りに努めています。和室も自由にご利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「出来る限り使い慣れたものを」とお願いしており、ご本人が落ち着ける環境になるようご本人・ご家族と相談させていただいています。	クローゼットが予め配されているため、大きな持ち込みはありませんが、中には古式ゆかしい引手がついた和筆筒やテレビを置く人も居ます。孫の写真やお気に入りであろう洋服を吊った思い思いの居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設け、お客様の安全を確保すると共に自由に往来できるようにしています。トイレ内や浴室内等の細部にも工夫をしています。		